

## 「もしかしてうちの子も？」 ネット依存の現状と取り組み

山中 千枝子

千斗枝グローバル教育研究所／こうちねっと見守り会議

「ねえ、お母さん」

わたしがはじめてあなたに会ったとき

あなたは、ケータイでわたしを写していました

生れたばかりで、期待と不安で

あなたをみつめていたとき、

あなたは、わたしを見ることもなく

ひたすらケータイと向き合っていました

あれが、メールというのでしょうか

わたしにお乳を飲ましてくれるとき

あなたは、ケータイの画面を見て、笑いながらメールをうっていました

授乳の時間は、メールタイム

そうなののでしょうか

ねえ、お母さん

どうしてわたしの方を向いてくれないの

ねえ、お母さん

いつまでたってもわたしは、あなたの顔を知りません

「かわいいでしょう、わたしの子よ」

「大好きなのよ、わたしの子よ」

いくらいっても、わたしにはわからない

ねえ、お母さん わたしを見て

ねえ、お母さん わたしを見て

わたしがはじめてお家に帰ったとき

あなたは、ケータイでわたしを写し、こうメモをしました

「はじめてのお家、はじめてのベッド」

わたしがはじめてお風呂に入ったとき

あなたは、ケータイでわたしを写し、こうメモをしました

「はじめてのお風呂、はじめての我が家のお風呂」

はてしなく続くケータイの中のわたしと、ケータイの中のわたしのメモ

おねがいお母さん、わたしを見て

おねがいお母さん、そのままのわたしを見て

ねえ、お母さん、

いつまでたってもわたしは、あなたの顔をしりません

ねえ、お母さん わたしを見て

ねえ、お母さん わたしを見て

### 【はじめに】

生まれてすぐスマホやタブレットでお守りをさせる保護者。ネットでしか繋がれない、そこでしか自分をみつけれない子どもたち。液晶画面の中から抜け出す術を知らない子どもたち。それと同時に、親子関係が希薄になり、そのことが原因と思われる家庭崩壊や多動傾向の子どもたちが増えてきたように思う。

### 【目的】

ネット依存がささやかれ始めて数年たつ。スマホ等を挟んでしか会話やコミュニケーションをしない親子も増えてきた。そのことが子どもに与える影響について知らせ、親子関係を再構築していくこと。

### 【方法】

平成26年度から、就学前から高等学校までを対象に「ネット依存診断(アンケート)」を実施。その結果とネット依存の事例をもとに、保・幼からおとなを対象とした啓発活動(講演、ワークショップ)を行っている。また、親子関係の再構築をめざした「デジタル・ダイエット・キャンプ」を平成28年度から、29年度からは「親子野遊び塾」を実施している。

### 【考察】

乳幼児期から長時間ケータイ、スマホ、タブレット、ゲーム機を使用している子どもたちが増えている。そして、子どもと視線を合わせることが少なくなった保護者たち。家族が、同じ空間にいないが、同じ時間を共有できない。それに伴って多動傾向がみられるようになった。トラブルも多く発生している。

### 【まとめ】

ケータイやスマホ等の長時間使用により会話がうまくできない、コミュニケーションができない子どもや若者。親子や友だちとの会話をメールやチャットで済まさないで、お互いが向かいあって双方向でのコミュニケーションを図ることが大切である。家族でいるときは、ケータイやスマホをやめて向き合ってほしい。啓発活動の必要性を痛感している。